

令和8年3月議会 施政方針

はじめに

私は、昨年11月に行われた町長選挙におきまして、第48代酒々井町長を拝命し、12月8日に初登庁させていただきました。その後、できるだけ早く今の町の状況を知りたいと思い、年末年始にかけ、数日間に亘って各課の職員から主要事業や課題について説明を受けました。町議会議員を10年間経験していましたので、およその内容は理解していたつもりでしたが、説明を聞いておりますと各課それぞれに課題を抱えていることがわかりました。また一方では、町長に就任して以来、町外も含め、様々な行事に参加させていただきました。町民の皆様とも直接お会いして、お話を伺うという機会も多くありましたが、そのように意見交換をさせていただきますと、日頃から町に対して深い愛情を持ち、町の未来について真剣に考えてくださっている町民の方々がたくさんいらっしゃるということを改めて感じました。

私の政治理念は、「まちづくりはひとづくり」です。地域社会が持続的に発展していくためには、地域に住む人々がまちづくりに参加し、共に成長を遂げ、新しい価値や概念が生み出されるという創造が重要であると考えています。

ヒトやモノなど限られた資源のなか、これからの町の未来に向けたまちづくりは、行政だけでできるものではありません。町民の皆様のご理解とご協力、そしてご参加をいただきながら、議員各位の皆さまはじめ、全ての町民の皆様と一緒に、より良い酒々井の未来を築き上げてまいりたいと考えています。

町の令和8年度予算編成にあたって

まず、前年度の令和6年度決算を振り返ってみますと、歳入においては、町の自主財源の8割を占め、歳入の根幹となっている町税では、定額減税の影響により個人町民税が減少したものの、コロナ禍から脱却し企業の経済活動が活発化したことにより法人町民税が増加となったことから、町税全体では、前年度に比べて5.9%の増加となり、歳入全体でも6.3%の増、77億9百万円となりました。

一方、歳出では、人件費や公債費、普通建設事業費などが減少となったものの、国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用した扶助費のほか、町体育館解体工事、酒々井小学校プール解体工事による物件費の増加などにより、歳出全体では、2.0%の増、71億7千2百万円となっています。

今後の見通しとしましては、2025年10月1日現在では1万1千人を超え、人口の約6割を占めている生産年齢人口が、「国立社会保障・人口問題研究所」社人研の推計では2040年に約9千人にまで減少するとされており、これに伴って、特に町税の個人所得割部分が減少していくことが想定されます。一方、歳出では、将来的に人口割合で40%を超えることも見込まれる高齢化の進展に伴う扶助費等、社会保障費の自然増や、公共施設の老朽化対策等への経費増大に加え、社会的な賃金上昇と物価上昇により、全体として歳入を上回る歳出の増が懸念されます。

このような厳しい財政状況においても、安定的に住民サービスを提供し、地域の活性化と持続可能な地域社会を実現するためには、「稼げるまち」として積極的に新たな財源を確保するよう努めるとともに、簡素にして効率的な行財政運営の構築を図り、中長期的視点に立って財政の健全化を進めていかなければなりません。令和8年度予算編成にあたっては、聖域なき行財政改革として、全職員が一丸となって事業内容等を見直し、さらに、予算編成方針の中においては、各課の経常予算の上限額を設定して配分し、予算編成を行ったところです。

## 令和8年度の主要施策

それでは、令和8年度に実施する主要施策について、第6次総合計画前期基本計画に掲げられた7つの基本目標に沿って、施策分野ごとにご説明します。

### 1 健康・福祉・子育て

#### 基本目標「誰もが健やかに暮らせる、支え合いのまちづくり」

①健康づくりの分野では、町民自らに取り組む健康づくりの推進として「各種検診の充実」を図ります。いつまでも自分らしく幸せに暮らすためには、まず何よりも健康であることが一番です。検診は、症状が現れる前に病気を発見する手段であり、特にがんや心血管疾患は、早期の段階で発見することで治療の成功率が高まります。町三師会とも連携を充実させ、受診しやすい環境づくりを工夫します。

②町国民健康保険、後期高齢者医療保険の被保険者に対しては、定期的な受診により健康リスクが明らかになり、生活習慣の改善や予防策を講じることにもつながることから「人間ドック費用の助成事業」についても引き続き進めていきます。

③子育て支援の分野では、「高校生等までの医療費助成」を引き続き行い、子育て世帯の支援に努めるほか、結婚・妊娠・出産期には、「伴走型支援」、「産後ケア事業」を主に、一人一人に寄り添った支援を行います。また、町独自の子育て支援施策である「ママ・パパ歯科検診」を実施していきます。

④高齢者福祉の分野では、地域包括ケアシステムの構築として「介護予防事業」の推進を図るほか、町内における介護職員の雇用を確保し、介護保険サービスの安定した供給に資するため、「酒々井町介護職員初任者研修受講料等補助金」の拡充を行います。また、介護サービスの質の向上を目指して県と連携した「介護ロボットやICTの導入支援」を進めていきます。

⑤障がい者や障がい児に係る福祉の分野では、障がい者や障がい児が地域で安心して

暮らすための支援として「地域生活支援事業」を引き続き推進してまいります。

⑥生活福祉の分野では、生活困窮者世帯への支援体制として生活困窮者の就労支援を引き続き推進していきます。

## 2 教育・文化

### 基本目標「人権と学びが尊重され、豊かな心と歴史・文化が香るまちづくり」

①学校教育の分野では、ふるさと教育として「酒々井学」を推進するほか、教育環境の整備として酒々井中学校グラウンドの整備を進め、生徒のスポーツ環境の改善を図っていきます。

②小学校の水泳指導は、酒々井小学校に加え、大室台小学校においても民間委託を実施し、専門的な指導により、児童の泳力・体力の向上をさらに図っていきます。

③学校給食費について、小学生分は国・県の新たな補助制度を一部活用して無償化を実施します。また、中学生分は国の物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金を活用して無償化を実施することにより、子育て世帯の負担軽減を推進します。

④生涯学習の分野では、年間を通じてあらゆる人権問題をテーマとした人権教育セミナーを開催し、日常生活にある様々な人権に関する問題や偏見への気付きを促すとともに、それらについて家庭、職場、学校あるいは地域社会の中で語り合うことができるよう、人権学習の提供に努めます。また、制度開始から13年が経過した町民大学青樹堂・町民大学院青樹堂などの見直しを行い、よりよい生涯学習のあり方を検討します。

⑤歴史・文化の分野では、本佐倉城跡及び周辺環境の整備を進め、国指定史跡本佐倉城跡の保存・整備・活用を推進します。

⑥生涯体育・スポーツの分野では、各種体育・スポーツの推進としてニュースポーツを含めた各種スポーツ教室や大会を実施するほか、順天堂大学や東京学館高校と連携してスポーツイベントを開催します。また、町民がスポーツに取り組みやすい環境の

整備として、学校体育施設の開放を積極的に推進していきます。

### 3 生活安全

#### 基本目標「豊かな日常を守る、安全安心なまちづくり」

- ①防災の分野では、地域防災計画及び国土強靱化地域計画等の適宜見直しを行うとともに、防災関係団体との連携強化を図り、災害時の協定締結を促進し、防災・減災対策の更新、充実を図ります。また、「ぼうさい出前講座」等で町民への災害時の自助・共助意識の普及に努めていきます。
- ②消防・救急の分野では、町民消防力の強化として消防団員の確保と充実を図るほか、町民の救急体制強化として救急救命講習等の実施拡充を進めます。
- ③防犯の分野では、犯罪抑止力の強化として町内への防犯カメラ設置の拡充を進めるほか、町内金融機関と協力して更なる防犯対策に取り組んでいきます。また、児童生徒の防犯対策を強化するため「子ども110番の家」の活性化を図るとともに、児童生徒が危険を回避する能力を向上させるための防犯教育に取り組みます。
- ④交通安全の分野では、交通安全対策の推進として登下校の見守り活動や地域犯罪を抑止するための「ながら見守り活動」の更なる充実を図るほか、通学路の定義を改めて確認したうえで通学路の安全点検を実施します。
- ⑤生活安全施策（防災・減災・防犯・交通安全対策など）に積極的に取り組んでいただいている企業・事業者を表彰する制度の構築など、地域に貢献されている企業・事業者さんに感謝を伝える制度を調査・研究します。
- ⑥消費生活の分野では、質の高い相談員による的確な消費生活相談の実施に努めます。

### 4 環境共生

#### 基本目標「自然と共存し、環境に負荷をかけないまちづくり」

- ①環境保全の分野では、環境保全対策の推進として町不法投棄監視員の皆様と協力し

ながら不法投棄防止パトロールを実施し、不適切な残土処理やごみの不法投棄の未然防止に努めます。

②町民の憩いの場である総合公園については適正な維持管理に努めるだけでなく老朽化した施設の改修・抜本的な見直しを進め、体を動かすことが楽しくなるようなストレッチ施設やドッグランの整備など、家族で1日楽しめる公園となるよう、官民連携手法の導入を含め多角的・多面的な視点から調査・研究します。

③馬橋川沿岸の盛土については、崩落により開渠部分における河川の流水が阻害されることを防止するため、土砂の撤去等の対策工事を実施します。

④脱炭素化の分野では、地球温暖化防止対策として公共施設の蛍光灯・電球のLED化を推進します。

⑤資源循環の分野では、ごみ収集体制の整備として継続的な見直しと手数料の適正化を検討します。

⑥生活衛生の分野では、公衆衛生の推進としてペットの飼い主マナー向上の啓発と飼い主のいない猫の対策を継続します。

## 5 都市基盤

### 基本目標「便利で快適な、歩いて暮らせるまちづくり」

①都市計画・市街地整備の分野では、適正な土地利用の推進として酒々井 IC 周辺地域等の有効活用について県との連携を強化し更なる推進を図ります。また、京成宗吾参道駅周辺地域の土地利用についても、ちびっこ天国跡土地利用の検討も併せて土地の有効活用について検討します。

②道路の分野では、広域・地方幹線道路の整備を促進するほか、国道51号の未改良区間の整備及び国道296号の交差点改良に関する要望を積極的に進めます。併せて県道「宗吾酒々井線」・「成東酒々井線」・「富里酒々井線」についても、それぞれ整備に関する要望活動を行っていきます。

③公共交通の分野では、鉄道利用者の利便性向上を図るため、JR酒々井駅のトイレ改修や京成宗吾参道駅のバリアフリー化などについて鉄道事業者に対し要望を行っていきます。バス輸送等の移動手段の充実として、路線バスの利用促進の啓発を実施するほか、地域の利便性を考慮した移動手段の確保に向けて引き続き調査・研究を進めます。

④河川の分野では、中川流域での治水対策、馬橋川周辺での治水対策、江川の河道管理を進めていきます。

## 6 産業・経済

### 基本目標「活力と魅力にあふれ、にぎわいのあるまちづくり」

①農業の分野では、農地の保全と活用の観点から、農地パトロールを実施し遊休農地の把握に努めるとともに、農地の集約化の促進を図っていきます。併せて、有害鳥獣からの被害を防止するための対策を実施します。このほか、収益の高い農業を推進するため、地元「酒々井産」として農産物のPR活動を行います。

②商工業の分野では、企業誘致の促進に向けた新たな産業用地の創出として、酒々井IC周辺の土地利用の促進と新規事業者の誘致活動を積極的に進めます。墨工業団地内の未利用地については、その解消に向けて取り組んでいきます。

③富里市・八街市・酒々井町の2市1町で構成する「酒々井インター周辺活性化協議会」によるインターチェンジを活用した地域振興など、成田空港の機能拡張を見据えた多様なまちづくりの観点から酒々井インターチェンジのポテンシャルを十分発揮できるよう検討していきます。

④地元の中小企業・小規模事業者の経営の安定及び産業の振興を目的として、キャッシュレス決済端末の導入に際して補助金を交付します。また、地元商工業者を支援するため、地元の商工業品を使用した商品の広報充実を図ります。

⑤観光の分野では、酒々井コミュニケーションセンターとまるごとしすいの連携を図

りながら、町内観光や特産品等の情報発信を強化します。また、しすい・ハーブガーデンの今後の在り方について検討します。

## 7 地域社会・行財政

### 基本目標「多様な主体との連携により、地域の力で紡ぎだすまちづくり」

①情報化・デジタル化の分野では、行政システムの情報化・デジタル化を推進するため、デジタル人材の育成に努めるほか、先進事例の発掘と調査・研究を行います。

②行政運営の分野では、持続可能なまちづくりのための「第6次総合計画・後期基本計画」を策定いたします。

③行政課題等に効果的かつ的確に対応するため行財政改革を推進するほか、公共施設総合管理計画に基づき、各施設の適正な更新、統廃合などについて調査・検討していきます。

④政策に則した適正な体制を整備するため行政組織の見直し及び改正を行うほか、適正な人員管理のため、職員数の適正化と多様な人材の確保のための調査・研究を進めます。併せて職員の働き方改革についても推進していきます。

⑤広報活動では、広報紙及び町ホームページ、町公式SNSの充実を図り、デジタルサイネージについても利用を促進してまいります。

⑥財政運営の分野では、安定的な財源確保に向けて国・県の補助金制度の有効活用を積極的に進めるほか、ふるさと納税についても新たな品目の拡充を検討してまいります。また、財政健全化計画を継続的に見直し、行財政改革に基づき選択と集中による政策推進を重視した予算編成を行ってまいります。

⑦地政学的強みと公共インフラの充実といった当町のポテンシャルを十分に活かし、積極的な企業誘致と職住近接の住環境整備による定住促進の拡大により税収の増加、確保を目指します。



## 結びに

現在町では、少子高齢化に伴う生産年齢人口の減少と長引く全国的な物価高騰により、厳しい財政運営が続いております。しかしながら当町は、鉄道4駅や高速道路インターチェンジなどの優れた交通基盤とともに、第2の開港を控えた成田国際空港に近接する立地環境というような、これらの課題を克服できるだけのポテンシャル、可能性を十分に持っています。

私は昨年選挙の際に「成田空港「第2の開港プロジェクト」を活かした発展するまちづくり」を政策として掲げさせていただきました。2029年の成田空港の機能強化、いわゆる「第2の開港」によりまして、空港内の従業員数は現在の4万人から7万人に増加すると言われております。このうちの10%でも5%でも、当町が受け皿となることのできるように、職住近接の環境整備を活かしたまちづくりを推進し、生産年齢人口の減少に歯止めをかけるとともに、千葉県に地域活性化インターとして造っていただいた酒々井インターチェンジを活用した企業誘致を、千葉県とも協力しながら積極的に推進し、町の賑わい創出と生活の利便性向上も併せ、自主財源の確保が可能となる「稼げる自治体運営」を目指してまいります。

私のこれまでの経験の中で培ってきた、国や県とのパイプを最大限に活用し、若さと情熱と行動力を持って、酒々井の未来がもっと素敵なものになるよう、町政運営に当たってまいりますので、議会をはじめ町民の皆様のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、令和8年度を迎えるにあたっての私の施政方針といたします。